愛知教育大学付属岡崎小学校　クスノキ　定期診断記録

診断日：2025年7月23日
診断者：中山和彦、西垣直人

形状寸法

樹 高　13.5m→12.0m　幹周　4.93m　葉張り　北9.4m 東8.1m 南5.9m 西6.8m

大枝周
- 北側枝（2.95m）（上方へ伸長した枝）　880㎜（2024/10/18）→ 885㎜（2025/07/23）
- 北側枝（2.5m）（横方向へ伸長した枝）　715㎜（2024/10/18）→ 720㎜（2025/07/23）
- 南側枝（2.8m）　560㎜（2024/10/18）→ 565㎜（2025/07/23）
- 西側大枝（3.5m）　1645㎜（2024/10/18）→ 1640㎜（2025/07/23）

葉身長による生育調査　北側下枝平均 57㎜　（R6年　61㎜）　南側下枝平均 72㎜　（R6年　69㎜）

評価項目	評価基準					備考
	1（良好）	2	3	4	5（劣悪）	
樹勢	全体に勢いがある	目立たないが一部が弱い	一部が明らかに弱い	複数部が明らかに弱い	全体に劣悪	
樹形	良好	一部が乱れる	複数部に問題あり	崩壊が始まっている	樹形が崩壊	
葉の密度	均等で多い	一部がうすい	複数部がうすい	少ない	葉がほとんどない	
葉の大きさ、葉色	良好	一部が悪い	複数部が悪い	全体的に悪い	極めて不良	
当年枝伸長量	全体に良好	目立たないが一部が少ない	一部が明らかに少ない	複数部が明らかに少ない	全体が極度に少ない	
梢端枯れ	なし	わずかに認められる	数か所に認められる	複数部に認められる	全体に認められる	枯死・衰弱枝を剪定したことにより評価が上がった
大枝の被害	なし	わずかに認められる	数か所に認められる	複数部に認められる	著しい被害が認められる	
腐朽の進行状況	進行なし	局所が進行	数か所に進行が認められる	複数部に進行が認められる	著しい被害が認められる	
病虫害	なし	わずかに認められる	数か所に認められる	複数部に認められる	著しい被害が認められる	ｸｽﾍﾞﾆﾋﾗﾀｶｽﾐｶﾒ

所見：

・衰弱した枝先を全体的に1～2m程度切り戻したことにより、樹高および枝張りは縮小したものの、切断部付近からは新たな萌芽が認められ、葉量の増加が確認された。あわせて、葉色についてもやや濃くなりつつある傾向が見られる。
・未だに上部および北・東側の葉は小さく、黄化の症状が散見されるが、2024年時と比較すると葉色には一定の改善が認められる。一方で、南側や新たに発生した萌芽枝においては健全な葉の展開が確認されており、良好な成長を示している。
・胴吹き枝についても順調に伸長しており、本個体の回復傾向を示す要素の一つとなっている。
・敷地内には樹勢の良好なクスノキが生育しており、当該個体の葉と比較した場合、葉色（色素濃度）には明確な差異が認められる。

樹勢等、主要項目評価の推移	2024年8月	2025年7月	2026年8月	2027年8月	2028年8月	2029年8月	2030年8月	2031年8月
樹勢 1↑↓5								
当年枝伸長量 1↑↓5								
葉の密度 1↑↓5								
葉の大きさ、葉色 1↑↓5								
腐朽の進行 1↑↓5								

北側から撮影（2024年8月）

北側から撮影（2025年7月）

東側から撮影（2024年8月）

東側から撮影（2025年7月）

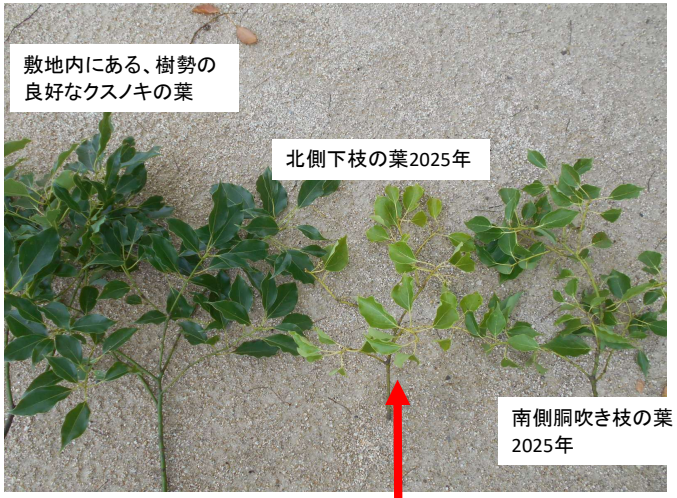
南東側から撮影（2024年8月）

南東側から撮影（2025年7月）

西側から撮影（2024年8月）

西側から撮影（2025年7月）

クスノキビロード病：フシダニの寄生によって発症するもので、殺ダニ剤による防除が有効である。ただし、現時点では被害が軽微であるため、対策の必要性は低い。定期的に観察し、必要に応じたいおぷを検討。



2025年の葉は、若干
緑が濃くなっている